

北陸先端科学技術大学院大学研究室教育指針  
Laboratory Education Guideline

研究室教育指針は、学則第30条の3に基づき、研究指導の方法及び内容並びに修了までの研究指導の計画をあらかじめ明示するものです。  
Based on the Article 30-3 of the general academic rules, the Laboratory Education Guideline is intended to clearly outline the methods and content of research guidance, as well as the plan for research guidance until completion.

氏名 / name : 日高昇平 役職 / official position : 准教授

<p><b>1. 研究テーマ / Research Theme</b></p> <p>認知科学、人工知能、神経科学、意味認知、理解、学習、言語発達、身体運動、模倣、コミュニケーション、情報、計算理論、非線形力学系。</p> <p>意味認知の理解に向けて 研究を含むあらゆる創造的な活動には、人の認知が関わっています。認知とは、心の働き・機能のことで、人類の発展の基礎には、個々人の「ものごとを理解し、創造する」認知が欠かせません。当研究室では、人がどのように意味を理解しているのか、その基礎的な認知過程を解明することを目的として研究を行っています。こうした研究は認知科学、人工知能、神経科学などの各分野をまたがって、理論的あるいは実験的に行っています。</p>
<p><b>2. 修得が期待される能力 / Competencies expected to be acquired</b></p> <p>研究室教育は必修 A 科目（先端）又は研究支援科目（融合）の一部として単位化されており、この欄はそれら科目のシラバス上の達成目標の一部となります。 Laboratory Education is accredited as a part of the Required courses A (Division of Advanced Science and Technology) or Research Support Courses (Division of Transdisciplinary Sciences), and this section constitutes a part of the course goals stated in the syllabus for such subjects.</p> <p>本研究室では、人の認知過程を調べるために、理論的あるいは実験的研究を行います。こうした認知過程の多くは、直接的に計測できるものではなく、理論・仮説・モデルを立てることを通じて、実験的に検討されます。従って、理論的研究に取り組む場合は、理論やモデリングだけではなく、実証的研究へとつなげるノウハウを、また実験的研究に取り組む場合でも、経験的な知見だけでなく、実験計画を組むための論理的な思考力を身につけられます。理論・実験の両面の思考力を身につけることで、一般企業に就職する場合にも、分野や業種を超えたコミュニケーションをするための素養が身につきます。</p>
<p><b>3. 研究指導方針 / Research Guiding Principle</b></p> <p>学生の主体性を重視するため、各自が興味を持てる研究テーマや、自立的に研究に取り組むことができるテーマを設定することを基本とします。研究室内の活動では、ゼミでの発表や議論を通じて研究を発展させ、基礎的な論理的思考を身につけます。ゼミ以外でも、各自の研究に直接には関わらない内容であっても、インフォーマルな議論を推奨します。積極的な研究への取り組みを推奨するため、一定の水準を超えた研究成果については、論文誌や国際会議での発表を目指して支援します。</p>
<p><b>4. 研究室活動の内容及び方法 / Content and Methods of Laboratory Activities</b></p> <p><input type="checkbox"/> 日次活動 / Daily Activities : インフォーマルな場での雑談（随時）  <input type="checkbox"/> 週次活動 / Weekly Activities : ゼミ（週1回）、目標設定・確認（週1回）、個別ミーティング（希望者は週1回）、お茶会（週1回程度）  <input type="checkbox"/> 月次活動 / Monthly Activities :  <input type="checkbox"/> 不定期活動 / Occasional Activities : 集中ゼミ（研究計画書、中間発表、修士論文審査会、公聴会等の直前期）、社会人学生の対面個別ミーティング（隔月1回程度）、研究室内インターンシップ（9-12月）、学会参加・発表（年1-3回程度）、合宿（年1回）、勉強会・読書会（必要に応じて随時）</p>
<p><b>5. 年間スケジュール / Annual Schedule</b></p> <p>本学の全学共通の年間スケジュールは「履修案内」の「学位取得に至るスケジュール」を参照してください。（本学HP参照：ホーム&gt;教育&gt;履修関係&gt;履修案内） Please refer to the “Degree conferment schedule for the master’s program/doctoral program” in the “Degree Completion Guide” for university-wide common schedule (JAIST website: Home &gt;Education&gt;Taking Courses&gt;Degree Completion Guide)</p>

主に4月入学の修士課程学生を想定した年間スケジュール

- ・新入生の文献調査課題（展開配属後2-3カ月）
- ・研究室内インターンシップ（9-12月）：研究室の先輩の研究を後輩が協働して On-the-job training
- ・（学内・学外の）サマースクール等参加（8月；M1は参加推奨）
- ・日本認知科学会での発表（9月；ほぼ全員発表；M1は参加推奨）
- ・研究室合宿（10-11月）

修士1年の学生は導入配属後、PIと相談の上、研究テーマの仮決めをして、その関連分野に関する文献調査課題に取り組みます。この文献調査が12月の研究計画書の事前提出の内容の基本になります。8月には認知科学会のサマースクールやJAISTサマースクールに参加して、分野の基礎知識の習得および参加者との交流を図ることを推奨しています。例年9月には日本認知科学会の大会があり、M2以上の学生は発表、M1学生は参加を推奨しています。例年10-11月ごろの研究室の合宿（計算論的認知科学研究会）をしており、M1, M2学生の研究計画書や修士論文研究の集中的な指導を行います。修士論文の時期に、顕著な研究成果が挙げられていれば、その成果を基に国際学会（CogSci等）への投稿を勧めています。